令和7年度第3回庄原市特別支援教育研修会

令和7年 12 月 10 日（水）14:00～16:35 庄原市総合体育館

「特別支援教育の校内支援体制の中核を担う特別支援教育コーディネーター及び特別支援学級担任の資質の向上を図るとともに、特別支援教育の充実に向けた組織的な取組について理解を深める。」ことを目的に研修会を行った。

【実践発表・協議】「特別支援教育の視点を生かした授業づくり」

庄原立市東小学校 教諭 森元 真理子

■「特別支援教育の視点を生かした個別最適な学びプロジェクト」校による今年度の取組報告

・特別支援学級（知的）の児童についての実態把握を全職員で行った。より多角的に実態を捉え、強みを生かした支援を行うことができた。

・通常学級においてもアセスメントシートを活用し、児童の学習状況の見取りから、必要な支援や様々な自己選択の場を設定するようにしている。

【参加者の感想等】

◆実態把握の方法が参考になった。本校においても「気になる生徒」についての実態把握や情報収集の方法の１つとして取り入れてみたい。

◆適切な実態把握ができていなければ、効果的な支援をしていくことは難しいと思うので、実態把握の重要性を学校全体で研修したいと思った。

【講話】「すべての子どもたちが『分かった！』『できた！』を実感できる授業デザイン」

広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 田村 沙織

■ユニバーサルデザインの考え方を生かした授業づくり及び異年齢集団における授業づくりのヒントについて講話をいただいた。

・「授業のユニバーサルデザイン」「教室環境のユニバーサルデザイン」「人的環境のユニバーサルデザイン」等の配慮を行い、より多くの子供たちにとって分かりやすく、学びやすい環境をつくっていくことが必要。

・複式による指導においては、一人一人の学習活動を支える準備、個々の児童生徒に応じた指導がより一層求められる。

【参加者の感想等】

◆3つのユニバーサルデザインについての理解が深まった。できそうなことから本校職員にも提案し、取組を進めていきたい。

◆異年齢集団での授業づくりについて、自分自身、難しさや困難さを感じていたが、明日から取り組んでいくことが分かった。

◆複数学年が在籍する支援学級で、一人で学習を進めていくことができるようにするための手立てを用意しておくことの大切さについて学んだ。

◆個々によって、理解しやすい「思考のヒント」は異なることが分かったので、実態把握をもとにして、適切な支援ができるようにしたいと思った。

◆子供同士が支え合う、学び合うクラスを育てること、「分からない」ことに相互理解が示せる場づくりを大切にしていけるよう、自校の職員にも伝えたいと思う。